

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)		令和6年度 川西市健康づくり推進協議会		
事務局(担当課)		健康医療部 保健・医療政策課		
開 催 日 時		令和6年8月7日(水)午後2時		
開 催 場 所		川西市役所4階 庁議室		
出席者	委 員	出席 織田委員、松浦委員、樋口委員、酒井委員、林委員、蜂須賀委員、福井委員、寶田委員、黒山委員、松隈委員、釜本委員、高瀬委員、中村委員、渡邊委員、山田委員 ウェブ出席 須藤委員、臼井委員、森田委員 欠席 佃委員、日下委員、武内委員、渡場委員		
	そ の 他			
	事 務 局	健康医療部: 阪上部長、松本副部長 保健・医療政策課: 西村課長 保健センター: 森所長、吉川所長、北田副主幹、宮代主査、赤尾歯科衛生士		
傍聴の可否		可	傍 聴 者 数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会 議 次 第		1 開会 2 議事 (1)第1次川西市健幸まちづくり計画の進捗状況(令和5年度実績)について (2)第2次川西市健幸まちづくり計画の目標値達成に向けた取組について (3)食育フェアの開催について 3 その他 4 閉会		
会 議 結 果		別添「審議経過」のとおり		

審 議 経 過

1 開会

開会の挨拶

(ウェブ出席者について本人であること及び意思疎通ができることを確認。過半数の出席を確認し、川西市健康づくり推進協議会規則第7条第2項の規定に基づき、審議会の成立を報告。)

自己紹介

2 議事

(1) 第1次川西市健幸まちづくり計画の進捗状況(令和5年度実績)について

第1次川西市健幸まちづくり計画の進捗状況(令和5年度実績)について事務局より説明

【質疑・応答】

(委員)

4ページ 記載順番3の心の相談事業、4のカウンセリング事業について、最近の社会的問題でオーバードーズの問題があるが、中・高生に対して薬の適正使用を授業で説明しても、心の病を解決しない限りは解決策がないのではと言われている。ここに記載されている精神障がいという定義は、診断がついている障がいを指しているのか、そこには至っていないが心に何か悩みを持っている場合も相談やカウンセリングができるのか。

(事務局)

心の相談事業については、受診前であっても悩みをかかえている方も含めて広く対象としている。オーバードーズの問題に関しては、教育の現場でも知識の普及に取り組んでいる。

(委員)

全国的にどの世代においても多くの人が何らかのストレスを抱えながら生活している状況だが、行政的に障がい者の基準はあるのか。

(委員)

精神障がい者の明確な基準はないと思うが、精神科で何らかの診断病名がついて診療を受けている方や精神障がい者として認定を受けた方などを総称して精神障がい者という扱いになっているかと思う。精神障がい者といっても非常に幅は広く、現状の対応としては、統合失調症など比較的症状の重い方の個別対応というところが多い。本人やご家族から相談を受けた際に、然るべき関係機関と連携して地域で生活できるよう対応している。行政的には、県の保健所では比較的症状の重い方を対象としており、市町村では精神保健として、極力そうならないための体制整備・一次予防といった内容が多い。

(委員)

12ページ7 不登校生への支援については、市内の全小・中学校にサポートルームができ、現場としては有難く感じている。また、2 スポーツ活動の推進では、学校の部活動が地域移行になっていく過渡期において、地域クラブに属している生徒も含めて健康スポーツ医学の考え方を取り入れた運動の推進を広げていく必要があると感じている。また、老齢期の健康という観点からも、生涯スポーツとして地域クラブも含めて発展してくれればと思っている。

(委員)

クラブ活動に関しては、一部手薄になる部分も出てくると思うが、市としての大きなくくりで働き方改革も含めて良い方向に向かえばよいと思っている。

(委員)

クラブ活動に関しては、地域内で行うのが難しい所もあり、クラブがない場合は遠くまで行かなければならず、国の施策で仕方ないと思うが、子どもたちも非常に戸惑っている。

(委員)

学校現場としては、もともと学校になかった部活動や生徒数の減少によりできなくなった部活動に地域クラブが参入されるケースもあり、自転車を使って遠くまで行くなど難しい点もあるが、逆に活性化している部分、選択の幅が広がった部分もあると思っている。今まで学校で行っていた子ども向けのスポーツ関係の研修などをどうしていくか、課題はある。

(委員)

交通面での安全、暑熱順化などの暑さに対する安全など、行政が中心になって一步一步やっていただきたい。

(委員)

歯と口の健康に関しては、今までは子どもを対象にした予防事業が非常に多かったが、少子高齢化が進む中で、高齢化に伴う口の機能の衰えが非常に問題になっている。6年度からはオーラルフレイル検診といって高齢者を対象とした検診スタイルをとろうとしている。今後は、全世代、特に高齢者の部分を充実させていきたい。

(委員)

食育に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で地域活動ができなくなっていたが、徐々に活動を再開させている状況である。繊細なお子さんが増えている印象もあるが、高齢者への食育も含めて活動していきたい。

(委員)

学校給食では、食材費の高騰もあり献立作成が非常に難しくなっている。衛生管理については、マニュアルを作成し、調理師・栄養士・市教員が連携して進めている。食育に関しては、電子黒板の導入などIT化が進んでいるので、それらを活用した献立の紹介などを検討している。

(委員)

食育が念頭にある中で、中学校給食でも給食センターのDVDを流すなどして、どういう意図で献立が作られているかを子どもたちに伝えていく必要があると感じている。PTA連合会としても、まずは保護者に給食に触れていただこうと、定期的に給食試食会を実施している。

部活動の地域移行は、働き方改革もあり避けられない事実であるが、家庭の収入状況によって部活動ができない子どもが出てくる可能性もあるので、無料体験チケットなど、弱い立場の子どもたちが守られるような施策ができないかと日々考えている。

(委員)

近年川西市でも農地面積が減っているが、給食の食材を供給する側として少しでも地産地消を進めようと、JAと市給食課で協議し一部食材を提供している。農業部門でも深刻な高齢化が進んでいるが、JAでは今年新たに給食部会を立ち上げ、安定的に食材を供給できるよう体制を整備しているところである。

(委員)

川西市では、ライフコースアプローチとして幼児から中学生まで切れ目なく子どもたちを食育で見守っており、成果を出しているのは素晴らしいと思う。一方で、32ページ目標と達成状況の420歳代女性のやせの人の数値が6年間で5.4ポイント悪化している。また、7の30歳代の朝食の欠食率も10ポイントほど悪化しており、子どもたちは小・中学校で食の知識をしっかりと付けているにも関わらず、その知識を使い切れていないのことに残念に思う。これからは若い世代にも食育、食の

力を付けていこうとされていると聞いているので、小・中学校で培った力を一生ものの財産として使っていけるような施策を続けていただきたい。

(委員)

22 ページの 8, 9 ごみ減量に向けた啓発や食品廃棄物の減量に向けた取組については、自己評価が目標を下回ったとあるが、給食の廃棄はどうなっているか。

(委員)

学校給食で出る食品の皮や残食に関しては、現在は、ごみの回収をお願いしている。

(委員)

21 ページの 5 に給食における日本型食生活の充実とあるが、家庭内で日本型の食事を食べていない子どもがいる中で、どう食育につなげていくかが課題である。また、中学校給食ではご飯の残食が非常に多いことも課題になっている。

(委員)

28 ページ 安心して暮らせる救急・医療の体制づくりでは、市立総合医療センターが開院し、休日診療は川西リハビリテーション病院において実施されており、それぞれが役目を果たしているような状況である。

(委員)

かかりつけ薬局を持つ市民の割合については、かかりつけ医・かかりつけ歯科医と比較すると低い
が、薬局を決めて薬をもらわない場合でも、一つの薬局で相談できるというのがかかりつけ薬局だ
と思っているので、そういうところをめざして努力していきたい。

(2) 第2次川西市健幸まちづくり計画の目標達成に向けた取組について

第2次川西市健幸まちづくり計画の目標達成に向けた取組として、令和5年度から実施の5大がん検診無料化、令和6年度から実施のオーラルフレイル検診、食育フェアなどについて事務局より説明

【質疑・応答は特になし】

(3) 食育フェアの開催について

令和6年12月15日(日)にキセラ川西プラザで開催予定の食育フェアについて、実施概要を事務局より説明

【質疑・応答は特になし】

3 その他

2024年(下半期版)かわにし食育カレンダーを配付

委員の任期について説明

4 閉会

閉会の挨拶